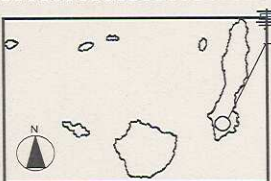
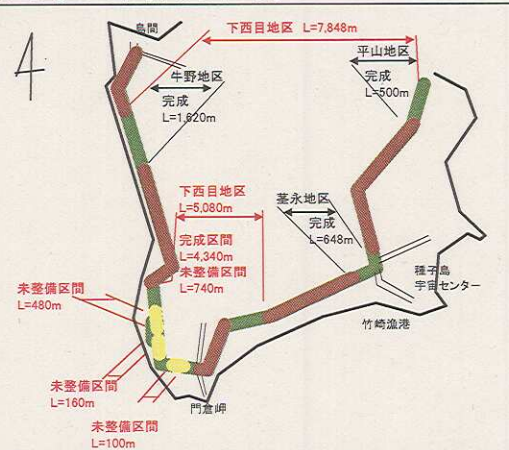


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局 地域道路課
担当課長名： 世利 正美

事業名	にしのおもてみなみたね しもにしめ 主要地方道 西之表南種子線 下西目工区	事業区分	地方道 (離島)	事業主体	鹿児島県										
起終点	自：鹿児島県熊毛郡南種子町平山地区 至：鹿児島県熊毛郡南種子町牛野地区			延長	7.8km										
事業概要	本路線は種子島東部を循環し、種子島宇宙センターや観光地の門倉岬を周遊する幹線道路であるとともに、災害時には国道58号の代替路線となっている。当該箇所は幅員狭小、線形不良のうえ歩道もなく交通の隘路区間となっていることから、整備を行い安全で円滑な交通の確保するものである。														
H9年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H9年度用地着手	H9年度工事着手												
全体事業費	38億円	事業進捗率	95%	供用済延長	7.1km										
計画交通量	260台/日														
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 5.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 2.2/53 億円 (事業費：1.6/47億円) (維持管理費：0.55/5.7億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 11/63 億円 (走行時間短縮便益：11/57 億円) (走行費用減少便益：0.00/6.2 億円) (交通事故減少便益：0.00/0.00億円)	基準年 平成18年											
感度分析の結果	事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（利便性の向上が期待できるバス路線 時間短縮 4分） ・隘路区間が解消され、交通の安全と快適性が確保されることから、地域振興に大きく寄与する。 ・歩道が設置されることにより、歩行者の安全が確保される。														
関係する地方公共団体等の意見	本路線は種子島東部を循環し、種子島宇宙センターや観光地の門倉岬を周遊する幹線道路であるとともに、災害時には国道58号の代替路線であるが、当該箇所は幅員狭小、線形不良のうえ歩道もなく交通の隘路区間となっていることから、地元は早急な整備を望んでいる。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	特になし														
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地買収については98%完了し7.1kmの供用を行っている。残り0.7kmの改良を行う。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	全体としては計画どおり進んでいるものの、相続多数箇所等の交渉が一部難航していること、また、一部地権者の事業に対する理解が得られないことにより、期間を要している。今後も地元の協力を得ながら整備を進める。														
施設の構造や工法の変更等	特になし														
対応方針	事業継続														
対応方針決定の理由	以上状況を勘案すれば当初から事業の必要性重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p style="text-align: center;">事業箇所</p> </div> <div style="flex: 2;">  </div> </div>														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">H18まで</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>H19以降</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改良済現道</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地買収済</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						凡 例		H18まで		H19以降		改良済現道		用地買収済	
凡 例															
H18まで															
H19以降															
改良済現道															
用地買収済															

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。